



## 地域の文学を掘り起こし、住民と共有する

法文学部言語文化学科日本文学研究室 野本瑠美・山根直子・田中則雄

古典から近現代にまで至る山陰の文学資料を掘り起こし、その意義を地元の方々と共有する取り組みを進めています。

学生との共同調査にも力を入れ、2022年度、2025年度、「島根大学生の発信する「島根の文学者たち」の世界」の企画展示を、島根大学附属図書館において開催しました。出展した学生グループによるギャラリートークも実施し、学内外の多くの方々に来場いただきました。

山陰の和歌文学、近世の散文、近代小説などに関する論文も次々発表しつつ、講座やセミナーなどで、地元の方々と一緒に講読する取り組みも続けています。

企画展示  
島根大学生が発信する  
「島根の文学者たち」  
の世界

期間 **2026年3月6日(金)～4月26日(日)**  
会場 島根大学附属図書館1階展示室 (地域コミュニティラボ)  
(〒690-8504 島根県松江市西川1060)  
入場料 無料  
会期中の休館日・館内時間は「島根大学附属図書館 館内カレンダー」をご確認ください。→

島根は古くから文学と縁を有する地です。紀貫之は『古事記』の序に、香渡嶋津(スサノオノミコト)が八咫大蛇を退治して助けた磐石田比売(タシナグヒメ)と結婚する時に妹んだ「八雲立つ 出雲八重垣 壁の八重垣 壁の八重垣」の一首から和歌が始まると述べています。また、楠木人麻呂や後鳥羽上皇をはじめ、島根は古典和歌文学と深い関わりを持ち続けました。近世(江戸時代)においては、大社の地を中心に和歌・俳諧活動が盛んに行われました。

近代以降も、森鷗外、島村抱月、藤野野矢をはじめ著名な文学者たちが輩出し、また、ラフカディオ・ハーン(小島八重子)・島村龍雄、島根正成、宇川豊之助らが刊行し、島根の人や風景を作品に残しました。

本展では、2025年度の法文学部言語文化学科の『共通演習Ⅳ』、大学院人間社会科学研究科の『地域資料実践演習Ⅰ』の受講者が、島根ゆかりの文学者たちを題材しようと、その事蹟や著作を調査し考察してきた成果を、パネルと展示で発表します。

島根と文学とのつながりの深さ、そこに生み出された文化の豊かさに思いを遣っていたら嬉しいです。

主催：島根大学法文学部言語文化学科、島根大学附属図書館、島根大学法文学部山陰研究センター 協力：島根県立図書館、手塚美術館

【問い合わせ先】  
島根大学附属図書館  
(情報科学センター) 1階  
〒690-8504 島根県松江市西川1060  
電話：0852-32-6087  
メール：sabisu@lib.shimane-u.ac.jp



企画展示「島根大学生の発信する「島根の文学者たち」の世界」